



明けましておめでとございませう。

皆様にご挨拶して新年のお慶びをもうしあげます。さて、新しい一年の始まりを迎えましたが、皆様お正月をいかがお過ごしでしたでしょうか。

ここ数年は、当院を含め医療機関は医療改革という荒波の真只中であり、将来の展望がなかなか開けない状態です。当院も去年九月よりDPC（診断群分類別包括評価）準備病院として手を挙げ、急性期の一般病院として生き残る道を模索中です。皆様には入院期間の短縮の為、ご迷惑をおかけすると思いますが宜しくご配慮ください。今年も少しずつ問題をクリアし、病院の安定した存続に向けて職員一同頑張るつもりです。宜しくご支援ください。

当院の診療体制は消化器外科を専門とする医師六名、整形外科医二名、消化器内科を専門とする医師一名、および緩和ケア担当医一名の計十名の常勤医からなっております。

外科部門では腹腔鏡下の手術の導入をはかり、胆石症のみならず、虫垂炎・胃癌・大腸癌にまで適応を拡大しております。より侵襲の少ない外科手術をめざし、今後も症例を重ねたいと思っております。

また、最近増加傾向にある乳癌治療にも力をいれており、毎週木曜日午後、乳腺専門外来を設け、乳房温存手術、術後の化学療法なども行っております。

消化器内科では、早期胃癌に対する内視鏡（胃カメラ）下の粘膜および粘膜下切除術を積極的に行っており、現在では外科的手術を必要としなく

なりつあります。

整形外科部門においても、昨年の九月より二名体制となったため、骨折等の外傷に柔軟に対応できるようになり、救急医療体制の充実をみております。

また、末期の癌患者様のケアを行う緩和ケア病棟も今年で九年目を迎え、皆様にご認知されつあります。

これに加え脳外科・呼吸器内科・循環器内科・糖尿病内科・および乳腺・内分泌外科の専門外来を設け、皆様のご要望にお応えできるように対応しております。今後も皆様に常に最新の医療を提供できるよう、職員一同努力させて頂きますので、どうぞよろしくお願い致します。

一方で、今までとは変わらず、地域の皆様のかかりつけ医としての機能、および救急医療体制も継続してまいりたいと思っております。皆様にご愛される本村病院として地域医療にも力を入れて行く所存です。

今年が皆様にとりまして、幸多き年となります事を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

平成二〇年元旦

院長 永渕 幸寿



